

敬愛



甲斐市立敷島中学校
学校だより第 7 号
令和 4 年 9 月 2 9 日
発行 樋川 和之

3年ぶり全て開催

第60回年輪祭『時』

9月14日(水)・15日(木)、第60回年輪祭が開催されました。本年度もコロナ禍での開催となりましたが、3年ぶりに文化部門・体育部門・展示や文化部の発表など全ての部門をフルサイズで行うことができました。年輪祭の節目となる第60回目のテーマは



「時」。このテーマのもとコロナ禍において2年間止まっていた「時」を動かそうと、生徒会本部が中心となり、まさに生徒全員が「チーム敷島中」となり、全力で取り組んでいました。3年ぶりの2日間の年輪祭を通して、敷島生の真剣な眼差しや、素晴らしいハーモニー、豊かな表情、自分や仲間のために走る姿…に、計り知れない大きな可能性が秘められているということを実感させられました。そして、二度とは戻ってこない「時(瞬間)」を大切にしながら、学級の仲間と、学年の仲間と、部門の仲間と全校の486名の仲間と一緒に、いろいろな可能性に挑戦をし、敷島中の新たな伝統を築いたと思います。きっと、生徒たちの心の中には、何年経っても色あせない、そんな60本目の年輪がくつきり、力強く刻まれたことと思います。



年輪祭のご参観ありがとうございました！

平日の実施、コロナ対策として人数制限などをお願いしたにも関わらず、年輪祭をご参観いただいた方は延べ850名でした。多くの皆様に参観していただけたことは、生徒・職員共に大きな励みになりました。ありがとうございました。今後も保護者や地域に開かれ、信頼される学校づくりに努めます。ぜひ、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

「敷島中ホームページへ」学校の様子をご覧ください。

<https://www.city-kai.ed.jp/schu/>



年輪祭を終えて…

生徒のふり返りより

体育部門が一番楽しかったです。…最初だったら、「勝ち」にしか目が向かなかった私たちのクラスは、この年輪祭を機に「みんなでやり切る」ことに目を向けていました。練習して、練習して、積み上げてきたものは、あっという間に終わりました。でも1位を取れなかったからといって、みんなはそれを無駄にしなかった。たくさん応援して、みんなでやり切ったら、それでいいんだって。順位にこだわらなくてもいいって…、みんなの前までとは違う「絆」が、今ここに見られた気がします。(1年生)

第60回年輪祭。スローガン「時」…私たち2年生にとっても、「初めての年輪祭」は、学級や学年、全校の仲間と共に、団結力を深めながら無事に成功させることができたことで、「一生の思い出」になりました。特に印象に残ったのは、文化部門の「学年合唱」です。初めて学年で1つになって歌えたことが、とても嬉しかったです。また、他の学年の合唱も、それぞれ色が出ていてとても感動しました。来年は、今年の3年生のように迫力のある合唱をつくり上げたいです。(2年生)

スローガンが「時」と決まったおかげで、初めて感じたことがある。それは、「今」を大切にしたいという気持ちだ。これまでは、ただ楽しめればいいなというだけの年輪祭だったが、もう一生同じことはできないと思うと、楽しみ方も変わってくる。合唱は聴くときも全力で聴いて、歌うときは全力で楽しむ。仲間との声かけを大切にする。みんなで協力しようという気持ちがあれば、クラスは1つにまとまっていく…。そんなことが体感できた、実感できた年輪祭だった。「まだ、終わってほしくない！」という気持ちが学校行事の中で生まれたのも初めてだった。(3年生)

NIE実践指定校 (R4～5年度)

R4～5年度「(一社)日本新聞協会」から県教育委員会を通して、「NIE (Newspaper in Education = 「エヌ・アイ・イー」) 実践指定校」の指定を敷島小と共に受けました。「NIE」は、学校で新聞を教材として活用する活動です。すでに、校内には「NIE コーナー」が設けられ、各教科の授業でも新聞を活用した授業が始まり、今週からは毎週木曜日の朝読の時間にタブレットを用いた「一斉朝新聞」の時間が始まります。提供される6社の新聞を活用し、いま子供たちに求められている「地域や社会の中で課題を見つけ、解決のために行動する力」や、「インターネット社会で、正しい情報を取捨選択し、読み解く情報活用力」を育むことを目的として実践研究を進めています。

